



# 考え



第十八回 『寄生獣』と「ネットウハ♡」とは何か？〜後編〜

ウマシカの冬の  
のんびりダサイ。

弦楽器イルカ  + 友人

aikoは才能があって、自然体という新しい分野を切り開いたね。

大抵のJpop（もちろん、Kpopや他の音楽も同じだろうが）がクソなので、彼女がこれだけ長い間、歌い続けられるのは当然だと思う。

長い間、歌い続けて、40歳目前の結構な年齢になったけど、同じ年代の未婚の女性には心強い味方だよな。

村上春樹は、陰謀論とはちょっと違うと思う。

春樹は見えにくくなった権力を、すこしだけ見えやすくしたのだと思う。

「羊」は民衆と権力の関係の暗部を、文学的に比喩的に描いた作品だと思うし、『1Q84』はそもそも元ネタがあるから断言できるけど、そういうテーマだと思う。

さて、どんな国の政治家でも、過去の絶対王政の皇帝であっても、権力は思いのままの力であることはないはず。

つまり、どんな権力の中枢の位置にある人物だとしても、自分が恒久に利益を享受し続けることはできなかつたはず。

権力の座は非常に細かい作用の確率的なバランスの上にしか存在し得ないはずだ。

それが、中国や米国を含めた今の世の中だし、過去の歴史もそうだったと思う。

どちらかといえば、春樹はその微妙さ加減のなかで、立ち振る舞う権力者と一般ピープルを描くのが得意なのだと思う。

なので、陰謀論というと、あまりにも単純化されすぎて、春樹のテイストがごっそり抜け落ちてしまっていると思う。

さらにいえば、こうした、社会の機微というか、もやもやとした複雑系に放り込まれていることを理解しないと、陰謀論とかの馬鹿げた極論を信じ込みやすくなると思う。

たとえばね、新聞を読んで、歴史の勉強をして、政治学を学んで、文学芸術その他の素養を身につけたような人間が、陰謀論を簡単に信じることは想像できないし、逆のタイプの人間が陰謀論を信じて怒りをぶつけているところは想像できる。

そういうことだと思う。

極論でいえば、原発の作業員について、1億円もらえるなら、ほとんどの人がやりたがるよ。俺ももちろんやるよ。

でも、お金が本当に重要なのか？という疑問は残るね。

日本国全体に拝金主義を蔓延させないためにも、こうしたことはお金で論じてはいけないと思う。

あとこれは推察だけど、1億円の話を持ち出すのは、今原発で働いている人に対して大変失礼な意見のように聞こえる。

ところで、最近、平等性について考える機会があったので、たまにはリプライだけでなく自分

の考えも書いておこうかと思う。

学生時代から考えていたことだけれども、人間の性格や知能、病気の有無やいわゆる運動神経などの能力については、先天的なものや後天的なものがあると思う。

「先天」と「後天」はきっちり分けられるものではなく、それぞれが、「原因」と「結果」となり、複雑に絡み合っているから、どちらがどうとは言えないだろうことは想像できる。

最近読んだ『やわらかな遺伝子』の著者が言っていたのだが、遺伝的要因以外のものを、均質にすればするほど、遺伝的な違いが目立つということには注目しなければならないと思った。

これはちょっと考えればわかることだけど、地域や文化が同じ場所で、親の教育水準や収入も似ていて、同じような環境が整った学校では、遺伝的な要素の違いが浮き彫りになるということ。

同じ環境で同じトレーニングを受けた同じチームの陸上選手たちは、遺伝の違いによってのみタイムに差が出るのと同じ理屈だね。

同質的で平等な社会を追求すればするほど、遺伝による差異が強調され、親の（遺伝という）資産を受け継ぐ要素が強くなるというジレンマに陥るね。

日本のように著しく平等な社会であれば、そのような傾向がすでに現れているはず。

これはある意味で残酷なことであり、生まれ落ちた一人ひとりにとって、より希望が少ない社会のような気がする。

もっと、愛や希望や目標を重視するためには、平等性は揺らがないといけない気がする。

遺伝的なもの以外の違いにもっともっと目を向けて、考えや文化の違いを取り入れてミックスさせる事こそが、遺伝の束縛に対する唯一の反逆だと思う。

もうひとつ平等でいえば、お金持ちがもっとお金持ちになることが、貧しい人々にとってプラスになることは多々あって、決して貧しい人からの搾取によってだけ、お金持ちが存在するわけではないと思う。

これは証明されたことではないけれども、そうだとしたら、差があることは悪いことだとはいえない。



Uからの手紙は俺の前編とは別に書かれたものだけど、うまく融合して俺の視界も少し開けた気がする。「だいたいのJ-popがクソ」ってさらっと書いてるところが一番面白かったけど。でもクソだってハエにとっては御馳走なワケで、だったらすべての文化がクソであり、誰もが自分好みのクソにたかるハエだと俺は思ってる。知的なクソ、抒情的なクソ、ちょとおセンチなクソ、お涙頂戴のクソ、暴力的なクソ、会いたくて会えなくて震えるクソ。クソにもいろいろあるけど優劣はない。クソ食う虫も好きずきってワケだ。まあこの話題は本筋じゃないんだけどね。

Uの話面白くて、そのうえで整理したいんだけど、「平等」な社会と「均質」な社会は相反する言葉として定義しないと要旨がぼやけると思ったよ。

一般的に、遺伝的な障害を持つ人や社会的弱者、高齢者や生活困窮者などを福祉で救済する社会は「平等」な社会って呼ばれる。今までこの国も含めて多くの社会が（建前だけでも）「平等」を目指してきたと思う。

それに対して、「均質」な社会は遺伝（世襲）的な要因による差異が放置され助長される社会だろう。障害者と健常者の扱いは同等。金持ちの子はずっと金持ち。世襲バンサイ。貧乏人の子だくさん。

そう考えると、Uが書きたい要旨はむしろ、遺伝（世襲）的な要因による格差にもっと目を向けたほうが、遺伝（世襲）による不平等を是正する役にも立つってことだと思う。

イケメンは遺伝でずるいからイケメン税を課したほうがいいとか、相続税をうんと高くして世襲政治家を全員ホームレスからやり直させるとか。逆に障害者を手厚く保障するとか、カツラに（エコカーみたいな）補助金出すとか。それこそが遺伝（世襲）による不平等をなくす政策だと思う。もちろんわざとふざけて書いてるところもありますが。

そういう意味で今この国は平等な社会よりも、むしろ均質な社会を目指していると俺は感じるね。

たとえば生活保護引き下げ。生活保護を引き下げると、同時に最低賃金の設定も引き下がるらしくて、そうなると生活困窮者がどんどん出てくるよね。でも、海外の安い賃金で生産される製品と競争するにはこの国の人件費は高すぎるから、「生活保護は悪」って空気を広めて最低賃金も一緒に下げたほうが、経営者にも産業界にも国にも社会保障費削減にも都合がいい。貧乏人はどんどん増えるけど。

ここでとりあえず事実をひとつ共有しときたい。ネットで読めるけど、ちょっと前にNHKが「サラリーマンなど年収3年ぶり前年比増」って見出しの記事を出した。読んでみたら、「年収別でも、1000万円を超える人が前の年より14万人増えて186万人、全体の4%となった一方、200万円以下の人は30万人増えて1120万人に上り、全体の24.1%を占めていて格差が広がった」って書いてあった。もちろん、NHK職員の平均年収は公式発表で1000万円超えてオチなんだけど。見

出しを素直にとれば、国営放送にとっちゃ年収200万円以下の人が国民の約一割に達したことよりも、自分たちがいかにエリートかって自慢が先なんだろう。今回の解散会見でも首相がしきりに「賃金上がった」って連呼してたけど、格差が広がってることには言及がなかったね。

さらに言えば最近の調査で、米国は上位1%の収入が国民の全収入の約20%を占め、また、上位10%の収入が約50%を占める超格差社会だそうだ。

また、世界の富裕層人口は3500万人で全体の0.7%だが、世界全体の富に占める割合は44%だそうだ。

俺がこれで思うのは、株とか為替相場って「金を金で引っ張る取引」だから、大金を持てば持つほど有利な仕組みだし、金持ち同士が共謀すればさらに有利さは拡大するって話だ。

例えるなら砂場にヒモ付きの磁石を埋めて、引き上げると砂鉄が取れるのに似てると俺は思う。でかい磁石を持ってるヤツがより多くの砂鉄を取れるし、場合によっちゃ他人の磁石ごと総取りできる。もちろん砂鉄の一粒一粒だって実は貧乏人が投資したハシタ金なんだけど、でかい磁石にかかれば元も子もない。競馬みたいに、金持ちも貧乏人も的中率自体は公平なギャンブルとは違い、相場は大金積めば価格を上げ下げ出来る仕組みだから、貧乏人は振り落とされぬよう必死でしがみつくしかない。

でも俺がここで格差社会を善悪で語っても大した意味はない。善悪なんて人間が共同生活する上で作った便宜的な概念だし、弱肉強食の均質な社会を生き残るには戦うための言葉を自分で考えるしかないからだ。そのうち『鉄は熱いうち、媚びは高いうちに売れ！』とか、『ドレイの品格 一賢いヘツライ術一』とかって本がベストセラーになるんじゃないかな、冗談抜きで。

泣き言だって、泣き方や拡散の具合を工夫すれば商売になる時代だから、貧乏人もやり次第では這い上がれる可能性があるかもしれない。遺伝（世襲）的差異を放置する均質な社会では既得権益による岩盤規制も多いだろうけど。

あと俺が原発作業員について毎回粘着してるのは、貨幣という文化について震災を機に真剣に考えるべきだと思うからだ。この国は原発再稼働もなあああですまそうとしてるけど、そもそもその前に「国家的なプロジェクトに携わっている原発作業員の年収額は一体いくらが妥当なのか」という議論もコンセンサスもない。

金だけでは幸せになれないが、幸せと金を切り離すのもほぼ不可能な社会で、国民を支えるために命削ってる原発作業員の適切な年収額についてもなあああで検討もせず、円安株高とか金融緩和とか実態のないマネーゲームに浮かれてる拝金社会は、それこそ無礼極まりないと俺は思う。

「最後は金目」って発言も、自分のポケットマネーを出して身を切るならまだイヤミで済むが、自分は損せずに税金使って保障するヤツがどの口で言うのかって話だ。他人を蔑むならそれなりの対価を払わないと、言葉に重みを失うよ。

さて前回、もし俺が政治家だったら自分だけが儲けるシステムを躍起になって構築するって書

いたら、いろんな閣僚や政治家の裏金報道がわっさわっさ出てきた。俺（みたいな考えの政治家）を社会の『寄生獣』って呼ぶのかもしれないね。

今さらだが権力者に貧乏人はいない。金持ちがより裕福になるための仕組みを作るのが官僚で、それが貧乏人にバレないように媚売って騙すのが政治家だと俺は思ってる。こう書くと権力者は悪で陰謀まみれって取られそうだけど、自分の立場をより強固にするために仕事するのは民間では普通のことだ。

権力者の得になる政策と、（徳にはなれど）損する政策があって、たとえば議員定数の削減とか、無関係な原発作業員の待遇改善とかの議論は軽く無視されても、ゴルフ税廃止いいね！とか、震災復興ってかやっぱオリンピックとカジノでしょ、とか国会で普通に議論されてる。

どうせなら政治家は何にいくら使ったか、すべての金の流れを死ぬまでネットで公表すべきだと俺は思う。それが遺伝（世襲）による差異を廃した平等な社会への一歩だろう。

ちなみにGDPのマイナス成長でアベノミクス失敗とか言うけど、俺は全然そうは思わない。アベノミクスは格差を拡大する政策だから、むしろ粛々と成功してると俺は思ってる。たとえば金融緩和で円をジャブジャブ増やせば物価が上がり、タンスや銀行に貯めてる（特に老人の）円の価値は下がる。だからって投資すれば儲かる人もいるけど損する人もいて、投資で確実に儲かるのは大金を撒き餌にしてハシタ金を吸い上げる富裕層と、取引手数料や税金を取れる胴締め側だ。貧乏人はそのおこぼれにあずかれれば幸運だが、何度も勝ち続ける保障はない。

更に言えば、福島の子供の甲状腺がんに関する第4回の県民健康調査なんだけど、「リンパ節転移は17例（31%）が陽性であり、遠隔転移は2例（4%）に多発性肺転移を疑った」と公式に発表された（この2例は過剰診断と騒がれる中で不幸中の幸いだって言った）。また国立がん研究センターの資料では「18歳以下の甲状腺がんが100人を超えて診断されている現状は、通常の61倍にあたり、何らかの要因に基づく過剰発生か、将来的に臨床診断されたり、死に結びついたりすることがないがんを多数診断している（いわゆる過剰診断）かのいずれかと思われる」って書かれた。

これらは全部俺から見れば、原発推進側の学者から出てる話だ。それに対して「たくさん検査したからたくさん見つかった」って結論になった。んでUも好きな遺伝子変異の研究からチェルノブイリとは別型だから放射線由来じゃないって学会発表が福島医大からあったんだけど（ネットではそれもだいぶ眉唾だって意見が出たが）、そもそも福島医大が学会で先に論文を公表したいがために県の委員会ではデータを出さずにコソコソ黙ってるって姿勢が問題になって、いわゆる御用学者同士や行政も絡まってゴタゴタ揉めごとになってる。

これらもネットで調べない限りほとんど報道されてないけど、弱肉強食の世界で金や権威に媚を売るのは悪じゃなくて普通だし、俺は被曝と病気の因果関係についてはわからないから何も言わない。

ただ文化は、それこそ文学芸術は、ここにある痛みに対して何かを語るべきだと俺は思ってる。

長くなったが、実はこっからが本題である陰謀論の総本山だ。

俺は〇〇ノミクスとかガラケーとか世間が勝手に吹聴するあだ名が嫌いだ。〇〇ノミクスって名乗れば「経済政策はじめました」という気分にはなるから、今後歴代総理は自分の名前に「ノミクス」って付けとけば支持率安泰だろう。

ガラケーも後からスマホと比較した際に出来た名前であって、「古いガラクタータイ」というネガティブな意図を感じる。

あと、年金の消失とか、投資で資産をとくすとか、失われた20年って言葉も好きじゃない。金は燃やしたりしない限り消失しないし、簡単に水にとけたりもしない。失われた20年だって、失われた原因は誰か、損失をこうむったのは誰か、逆にその分利益を得たのは誰かを曖昧にする言葉だ。誰かが損した分は誰かの儲けになるのが社会だ。もし誰も利益を得てないとしたら、そもそも誰も失ってない、取らぬ狸の皮算用だったって考え方もある。

そういう意味でネトウヨって言葉も全然好きじゃない。言葉の定義が曖昧で、誰を指してるのか定かじゃない。衆院解散を目くらましに使うのは政治家の自由だが、言葉を目くらましに使うのはフェアじゃないと俺は思う。これも国語の問題だ。

では、確実に「いる」のは誰かから考えよう。

事実として、いくつかの政党は支持母体としていくつかの宗教と密接に関わってる。

更にウィキで「宗教右派」って項目を引くと、そこだけでも19の団体名が出てくる。宗教の信者数って自己申告だから水増しされてたりよくわかんないらしいが、とりあえずネットで軽く調べたら、それら団体の信者数は大雑把に見積もって、のべ1582万人だった。まあ、国民の一割以上に当たるこの数はものすごく眉唾だけど、ただ少なくない数の人々が右寄りの団体に加入してるのがこの時点でわかる。

宗教が政治と密接に関わり、更に各政党が公式に金を使いネットで意見を広めてる現代で、自分が団体に所属しているか否かを公表する必要がない「宗教右派」の信者のうち誰かが、右寄りの書籍や団体に金を落とし、自分が所属する団体の考えを匿名でネット布教し、結果的に団体のお布施集めにも貢献してると思えることは、そういう活動が永遠にゼロな場合と比較して、どちらがより合理的だろう？

そこで、右寄りの団体に属しながらそれを明かさずに活動する人々を仮定して、俺は彼らを「中ウハ♡」と呼ぶことにする。そしてそれと気づかずに右寄りに同調し巻き込まれる人を「巻ウハ♡」と呼び、更に彼らが全体で行うネット上の活動を「ネトウハ♡」行為と呼ぶことにする。

「ネトウハ♡」行為について割と真剣に考えるようになったのは前の都知事選の際、本来支持されるはずの与党推薦候補を「外国人参政権許すまじ！化けの皮をハゲ！」と罵倒してこき下ろし、ライバル候補を「神！」と崇めたてまつった時からだ。その「神！」候補は今回認可が降りなかった某宗教大学の教授に内定してたって報道もある。

更に複雑なのは、いわゆる在日でも北と南では日本の「外国人参政権」に対して意見が分かれてるってことだ。北側は「外国人参政権」に反対してるし、そもそも北政府は「半島統一しても一国二政府制度を敷いてくれ」と言ってるから、自分たち上層部の利権が失われるくらいなら統



一しない今のまま、現状維持の方が都合いいだろう。

そうすると、「外国人参政権反対！」って唱えてるのはいったい誰かって話にもなる。更に複雑なのは、宗教右派の中には教祖が日本人じゃない有名な宗教もある。

もっと調べればいくらでも出てくるんだが、これらをまとめて文章にするには、ちょっとやそとの陰謀論じゃ片付かない。だから俺にとって陰謀論は簡単じゃないし盲信もできない。自分の頭で状況を分析してどこがどうつながってるのか真剣に考えても真相にはきっと一生辿り着かないだろう。でも俺はそれが面白いと思ってる。

権力者に求心力があればより大衆を騙しやすい。だから求心力を高めるために、宗教や国家は敵を創作する。これはよくある一般論だ。

その権力を維持するために、今、日中韓でいわゆるナショナリズムが煽られている。権力者にとって都合の良いテーマが愛国心ただだけで、実際イデオロギーの中身なんてどうでもいいんだと俺は思う。それぞれの権力者にうま味がある範囲内で対立が収束するよう、各国間で裏取引が行われてたとしても全然不思議じゃない。逆に各国がノープランで愛国心を煽ってたらそのほうがむしろ心配だ。

この国では反中韓は儲かるし、軍備の強化や対米従属も維持できるし、権力者にとっては票になる。各団体も複雑に絡み合ってる。

つまりUが指摘する通り、複雑系なこの世界では、「どんな権力の中枢の位置にある人物だとしても、自分が恒久に利益を享受し続けることはできな」いし、「権力の座は非常に細かい作用の確率的なバランスの上にしか存在し得ない」だろう。

それはつまり、有象無象が跳梁跋扈する膨大な陰謀の上にこの世界が成り立ってるってことだ。人の数だけ陰謀がある。ただその全体像を俯瞰で見るのは難しい。それが俺なりの「リトル・ピープル」であり、誰が「寄生獣」なのか見極めたいと思ってる。つまり、Uが俺にとっての「ミギー」だってオチかな。

さて、今回はこんな感じ。やりきったよ。

どうかな？





陰謀論について、さらに思うところがあるので追記させてもらう。

まず、遺伝のことだけれども、遺伝的な違いは、子供の頃よりも大人になってから現れるものもある。

もちろん、アルツハイマーなどの病気だけでなく、もっと身近なところでハゲとかもそうなんだけれども、それ以外について、意外なところで、大人になって現れるものがある。

それは、知能というか頭の良さについてだ。

子供の知能よりも大人の知能のほうが、遺伝の影響が大きい（かもしれない）という。

これも最近読んだ『やわらかな遺伝子』で論じられていたことなんだけれど、子供の頃は育ての親の影響が非常に大きい。

親が何を思って、どんな環境を子に与え、どのように育てるかによって、子供はどんな成長をしていくのか影響を受ける。

これを環境の違いと言うのだけれど、環境の違いと遺伝の違いの大きさは、たとえば、離れ離れに育てられた一卵性双生児や、同じく育てられた二卵性双生児の違いを比較検討することによって、上手く測定することができる。

なのですでに科学的にわかっていることだけれど、子供の頃は育ての親や環境の影響が強い。

しかし、子供から大人になり、親から離れ、それぞれの人生を歩んで、多くの経験を積むと、その経験のプラスやマイナスを非常にたくさん浴びることになり、子供時代よりも、環境の違いが平均化されていくだろう。

子供の頃に取得した環境の違いを大人になってからも引き継ぐこともあるが、子供の頃に閉じ込められた環境から脱出し、そして社会にもまれることも多くある。

要するに、環境の違いは子供の頃に親から作られることは大きいですが、大人になると多くの人が同じような社会に放り込まれるので、差異が少なくなるということ。

環境の差異が小さくなると、当然、遺伝の差異が目立ってくる。

思うに、日本人に限らず、人は教育を受ける期間を過ぎてしまうと、ピタッと学習することをやめてしまうことが多い。

一方で大人になってからも学び続ける人もいる。

これは、遺伝の影響が大きいかもしれない。

残酷なことなのか、そうでないのかはわからないが、大人になってからの能力の違いの方が、天性の素質を表していると思う。

子供の頃の学習と大人の学習はまるで違う。

理解がしやすいように単純化された内容を、教師と教科書から学ぶのか、生きた社会の渦の

中で、自分が主体となってもがきながら学ぶのか、まるで違うだろう。

話は変わるが、あの指原莉乃のスキャンダルを秋元康の陰謀と理解する人もいるが、それは違  
うと反論したい。

結果だけを見れば、ステマの茶番劇のように思えるかもしれないが、リアルタイムにあの事件  
を肌で感じていた自分からすればまるで違う。

指原莉乃はもうクビになるかもしれない、逆にクビにならない場合でもAKBはどうなるかわか  
らない。

いずれにせよ、スキャンダルが双方に良い結果をもたらすなんて、ほぼすべてのファンや関係  
者は思わなかつたろう。まだ結果を知らない時点では。

そんななかでの、HKTへの移籍は「神の一手」と呼ばれたが、それがうまくいくかどうかは、  
当時のファンにはわからなかつた。

未来を予想するよりも、未来をつくるほうがたやすいとはよく言ったものだ。

秋元康も指原莉乃も努力した。その努力を知らずして、結果だけを見てはいけない。

結果的には大成功に終わったが、ここまでうまくいくとは、秋元康だって思っていなかつたは  
ずだ。疑うなら、当時のラジオをyoutubeで聞いてみるといい。

どうなるかはわからない、もやもやした複雑系の社会の中で、はっきりとした未来は見えない  
けれども、選択を迫られ、秋元康は動いたし、指原莉乃も動いた。

こうした答えのない状況下での選択は、先がはっきり見えているからできたというよりは、先  
が見えない中での判断力やぼんやりとした明るい方向を感知する能力から生まれるものだと思う  
。

それは、社会の複雑さを理解し、ありとあらゆる情報を統合し、一つの結論に修練させるとい  
うダイナミズムのなかでできることだ。

けっして、答えがある受験勉強では学ぶことができないことなのだ。

大人になってからも学び続ける人間にしか、この微妙な加減は理解できないだろう。

これが理解できない人間は、「どうせはじめから仕組まれていたんだろう」などというが、そ  
ういう人間は、失敗を成功に変える大人の卓越した能力を認めることができないのだろうと思  
うし、それは、失敗を成功に変換する力が無いから認められないのだと思う。

間違いなく言えることは、大人になってからも学習は必要であり、多くの人はそれをしていな  
いということ。

それは遺伝の影響かもしれないが、学習した人としらない人では、大きな差となって現れてくる  
ということ。



考えるウマシカ～第十七回 『寄生獣』と「ネトウハ♡」とは何か？ 前編～

<http://p.booklog.jp/book/92317>

著者：弦楽器イルカ+友人

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/gengakkiiruka/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/92317>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/92317>



電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ